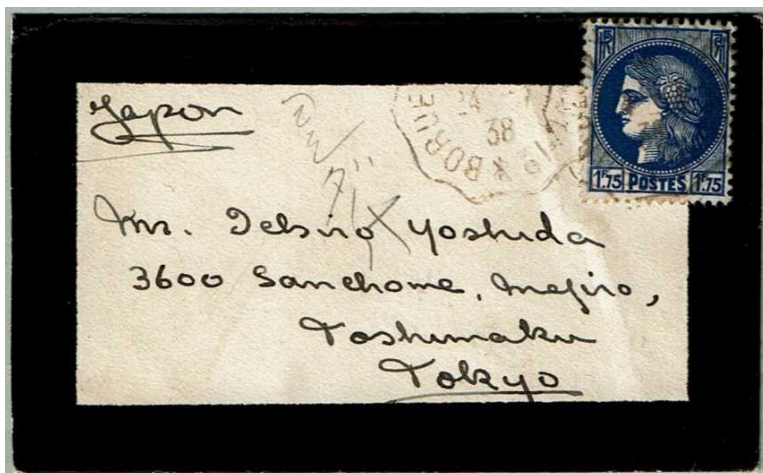


トレーシー・ウッドワードの遺族から吉田一郎への会葬礼状

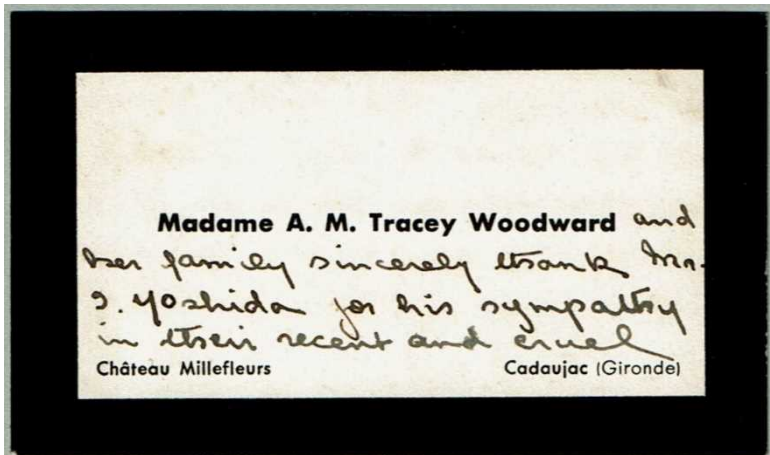
谷之口 勇

太平洋戦争前の日本切手の著名外国人郵趣家の死去の際に、
遺族が日本の郵趣界を牽引していた郵趣家へ宛てた会葬礼状



フランス・1938年発行のセレス1.75Fr切手(SCOTT#335)を貼り、差し出し。日本・東京宛て。

BORDE(AUX) 24. 7. 1938 消印の一部は半読できず。



同封していたお礼のメッセージを記載したカード。

手書きで追加のメッセージも記載。

右下に記載しているのは地名(ジロンド県ガドージャック)。ボルドー南側に位置する。

2月に福岡県北九州市で開催した「北九州切手のつどい2024」で講演を担当しました。講演が終わってひと段落した時に覗いたアオヤマスタンプさんのブースで購入した小さなカバー。黒縁である事から喪に絡んだ手紙である事は分かりました。

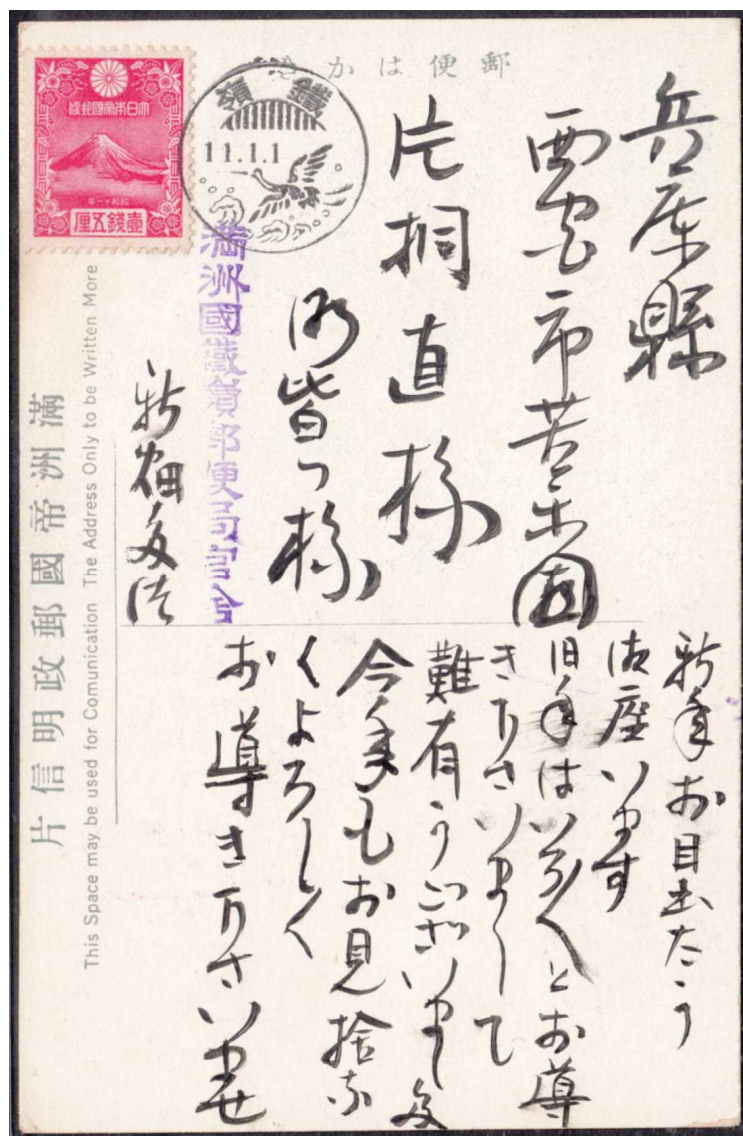
店主からの「小さな封筒を使ったカバーは時々見るけど、フランスからのカバーで高額の切手を貼ったのはあまり見掛けないよ」という売り文句もあったのですが、見た目には何か惹かれる物があったって購入しました。

帰りの列車内で、入手した切手類を眺めている時に気付いたのが、トレーシー・ウッドワードの死去に伴い遺族から吉田一郎宛てに宛てた会葬礼状だったという事でした。

単なる「小さな封筒を使ったカバー」ではなく、郵趣的に意味のある品を手に入れることができました。(吉田一郎、トレーシー・ウッドワードについては右ページ参照)

昭和11年の年賀切手貼り年賀状

石原 正



戦前に発行された最初の年賀切手を貼った年賀葉書で、鶴図案の絵入り年賀印がきれいに押されています。

局名の「鐵嶺」(右書き)は旧満州の地名で、差出人名のところに「滿洲國鐵嶺郵便局官舎」というゴム印が押されています。差出人は郵便局の職員(またはその家族)のようです。使われている葉書は、満洲鉄嶺の名所の写真で構成した絵葉書です。(編)

鐵嶺(満州) S11(1936).1.1
(絵入り年賀印)
→ 西宮

吉田一郎

1879 (明治12) 年岡山県生まれ。
通信教育会社「大日本英習字研究会」を実業家として活躍する傍ら、趣味と実用を兼ねて切手収集に注力。郵趣面では、郵趣家団体の「日本郵券倶楽部」の結成、切手専門誌「切手趣味」と切手カタログの原型「大日本郵便切手標準型録」の発刊、といった功績がある。1961年神奈川県で死去。

トレーシー・ウッドワード

(Alphonse Marie Tracey Woodward)

1876 (明治9) 年フランス領レユニオン島生まれ。日本に在住し日本切手を専門的に収集した。1929年ロンドン王立郵趣協会からクロフォードメダルを授与。代表的な著書に「大日本及び全(どう)属国の郵便切手」がある。1938年上海から自宅へ戻る船内で死去。